

学生交流イベント「茨木市文化・子育て複合施設おにクル 見学会」実施報告

2023 年 11 月にオープンした茨木市の新たな複合施設「おにクル」。世界的建築家である伊東豊雄氏が手がけ、「育てる広場」をコンセプトに、図書館やホール、こども支援センター、市民活動センターなどが組み合わさった文化・子育ての複合施設として整備されました。茨木市の中心部に位置する「おにクル」は、新たなまちのシンボルとして、建築面でも特徴的な施設となっている。他、これからの茨木のまちづくりの中心となることをめざし、市民参加型の取り組みも多数展開されています。

都市づくりにかかわる様々なハード、ソフトの工夫や挑戦が詰め込まれた最新事例を学ぶとともに、実際にプロジェクトに携わった担当者の方からのお話を伺いながら、都市づくりの仕事を身近に感じ、今後の学生の皆さんのキャリアを考えていただく機会とします。（告知フライヤーより）

◆当日次第

- 1) プロジェクト概要説明
- 2) 現地見学

◆開催要領

日時：2024 年 1 月 25 日（木）15：00～17：30
会場：おにクル 2 階多目的室 C2
参加：35 名

プログラム：

15：00	～	15：05	会長挨拶
15：05	～	16：00	プロジェクト概要説明
〔 茨木市都市整備部都市政策課 市民文化部共創推進課 〕			
16：00	～	17：30	現地見学

◆開会挨拶

（国際・交流委員会 委員長 大庭氏（京都大学））
最近、関西でも子育て支援、図書館等の様々な機能をもった複合施設が立地しており、そのようなかで茨木市のおにクルが非常に注目を浴びてい

る。なぜ注目を浴びているのかということとその良さについて見学会を通じて実感してもらえれば、



◆プロジェクト概要説明

「茨木市の中心市街地の取り組みについて」

【説明者】

茨木市都市整備部都市政策課 杉浦氏、山田氏

【報告概要】

○おにクルの概要

- ・おにクルは 2023 年 11 月にオープンした施設でできたばかりだが、すでに来館者は 20 万人を超えている。
- ・おにクルはホールや子育て支援施設など様々な公共的な機能を持たせた複合施設。
- ・機能を集めすぎではないかという意見も少なからずあるが、各機能の化学反応が起こることを期待している。そういった化学反応が起こるよう施設配置やデザインなど様々な工夫を施しており、公共施設としてもいいものができると考えている。
- ・おにクルはプロセスを大切にしながら市民の皆様と作り上げてきた。かかわってきた人たちがこの施設やまちに対して自分事として関わったり、愛着を持ってもらうことで、まちの価値の向上につながるものと考えている。
- ・そういう想いの元、市の職員もかなりの熱量をかけ、様々な部署を横断して事業を進めてきた。

○茨木市の中心市街地の取り組みについて

- ・茨木市は 76.47k m²、人口 28 万 5 千人で微増傾向。北が山間部、南が市街地になっており、特に阪急と JR の駅間とその周辺が茨木市の中心市街地となっている。
- ・茨木市では中心市街地のまちづくりの考え方として茨木グランドデザインを策定しており、このグランドデザインの考え方を共有することを目的にイバラキクラウドというロゴマークを使

っている。

- ・イバラキクラウドは多様な主体を氷や水の粒に例え、それらが集まって化学反応を起こし雲になるったり、出来た雲同士がくっついたり新たな形を作ったりするといった、人と人、活動と活動をつなぐネットワークを雲のイメージにのせている。
- ・グランドデザインでは中心市街地を2コア1パーク&モールという都市構造で捉えている。
- ・コアの一つである阪急茨木駅での取り組みとしてジャズのイベント等、賑わいのあるイベントが行われている。
- ・もう一つのコアであるJR茨木駅では、茨木スカイパレットという愛称で親しまれており、デッキでもマルシェ等のイベント利用が増えている。
- ・1パークは中央公園と市民会館跡地エリアから成り、ちょうど2コアの中心に位置している。また、これらに隣接する市役所前線では通行止めし、道路上でキッチンカーや餅つきなどのイベントをする社会実験をした。
- ・1パークの位置で市街地を南北に貫く全長5キロの元茨木川緑地をおにクルの開館に併せ改良工事を行った。改良工事では単なる樹木の更新ではなく、市民活動がより広がるようリニューアルではなくリデザインとして事業を実施した。
- ・2コアをつなぐ中央通りでは、歩きやすく歩きたくなる魅力的な空間を作っていく取り組みとして、歩道にベンチをおいて休憩できるようにしたり、側道を通行止めして遊び場やテラス席を設ける社会実験をした。
- ・茨木市ではおにクルという新たなシンボルの周辺だけでなく、さらに賑わいが面的に広がっていく取り組みや検討が各所で行われている。

「おにクルについて」

【説明者】

茨木市市民文化部共創推進課 的場氏

【報告概要】

○おにクルについて

- ・市民会館跡地エリアは大きく4つの区域に分かれている。市役所の西側におにクルが立地しており、北側はIBALAB@広場として令和2年から利用しているが、数年後は公園として再整備する予定。現在のIBALAB@広場は実験的に運用し

ている状態。

- ・おにクルは全国的に見ても珍しく公共的な機能が詰まっている施設。主な機能はホール、図書館、子育て支援施設、プラネタリウム、屋内子供広場などがある。前面には芝生広場があり、建物の特徴としては縦の道という大きな吹き抜けがある。
- ・設計は伊藤豊雄事務所と竹中工務店の共同企業体。総工費は約166億円となっている。
- ・おにクルの設計コンセプトは2つあり、1つ目が「日々何かが起こり、誰かと出会う」となっており、縦の道を中心に様々なプログラムが溶け合う新しい公共施設を目指している。2つ目は「立体的な公園」となっており、南北に連なる元茨木川緑地の緑や芝生広場と、施設の各階テラスや施設内の緑につながり、建築とランドスケープが融合した立体的な公園を目指している。
- ・市民等の活動の場としては、ホールだけでなく、1階のエントランス広場やオープンギャラリー大屋根広場、7階の屋上広場などのオープン広場を使いイベントを実施することができる。
- ・おにクルの正式名称は茨木市文化・子育て複合施設おにクルだが、アートとのコラボも多数している。

①フライタワー

圧迫感があることからフライタワーの壁面の価値・魅力向上のため名和晃平氏（彫刻家）によるアートワークが施された。

②おはなしのいえ（2階）

井上直久氏（画家）による原画をもとに設計。大型絵本や紙芝居がそろった絵本との出会いの場をおはなしのいえとして絵本広場に隣接して整備。

③シップスキャット

ヤノベケンジ氏（現代美術家）によるアート作品を施設内に設置。

④ワンダーウォール

山城大督氏（映像作家）に子供が楽しめるような映像を作成してもらった。子育てフリースペースにプロジェクターで投影しており、映像を触ると球が動くような仕掛けがある。

⑤輪唱の○（わ）

つちやあゆみ氏（木工作家）による子供が自由に旋律を作れる木琴のようなアート作品を設置。

その他、案内サイン、家具、照明、カーテンについてもアーティストとコラボしている。

○おにクルができるまでの経緯（市民参画の取り組み）

- ・平成 27 年に市民会館がバリアフリー、耐震面の課題を理由に閉館した。跡地の活用検討に当たっては、市民との対話を軸に考えてきた。
- ・従前と同等のホールを作るのではおもしろくないので、市民（無作為抽出 5,000 人）に対してアンケートを実施。
- ・H28 には市長と市民の対話である 100 人会議を実施。会議は年代別、市民会館の利用有無など様々な属性の方々と 10 人単位の会議を 10 回実施した。
- ・アンケートや 100 人会議で様々なキーワードを集約していくことで跡地にどのような機能が必要か見えてきた。
- ・施設を作るだけではなく、市民の皆さんの参加を促すため、「育てる広場」というキーコンセプトを作り、施設をどう使い、どう変えていくかを市民が自分事として捉え市民によって作り上げられていくよう対話と参加をキーワードに進めてきた。
- ・「育てる広場」を実現していくためにはみんなで一緒に考える必要があったため、H28～R5 の間に 108 回のワークショップを実施し、トータルで約 2,200 人の市民が参加し、市民の皆さんと一緒に考えた時間は計約 5,500 時間となった。
- ・例えば、平成 30 年に施設・広場ワークショップを実施し、それぞれの空間での過ごし方を考え、必要な施設や機能を話し合った。また、令和 2 年には設計事務所も参加し、施設の設計を考えるワークショップを開催した。令和 3 年度にはワークショップ「ミルミルフムフムツクール」を開催し、このワークショップで開館後も継続して活動していく 6 つの取り組みが生まれた。
- ・また、ワークショップで考えて終わるのではなく、アイデアを実際にやってみる社会実験を市民参加型で実施した。
- ・令和 2 年 10 月に「育てる広場」の具現化として IBALAB@広場がオープンした。オープン前にワークショップを実施し、禁止事項ではなく、「出来る」ことを続けていくためのルールを考えた。
- ・IBALAB@広場利用のルールは決め切るのではなく、常にバージョンアップする柔軟な運用をし

ていくこととしている。オープンしてからは様々なイベント利用や広場会議等様々な「やってみる」を実施している。

- ・おにクルでも IBALAB@広場のように市民と一緒に考え試してみるを大切にしたいと考えており、おにクル開館日を盛り上げる「オープニング実行委員会」やおにクルの各施設を使ってみる「はじめて企画」やオープンスペースや広場の利用ルール作りを検討していく「運営協議会・市民部会」が立ち上げられた。今後もおにクルが「共創の場」「まちの実験場」となり、おにクルで実施した取り組みが茨木市全域に広がればいいと考えている。

質疑応答

（質問者 1）

- ・市民を巻き込むと言っていたが、おにクル整備に当たってはかなりたくさんの市民が参画している。どのように市民を発掘したのか。

（回答）

- ・やり方はいろいろあるが、例えば面白そうな市民がいれば営業をかけに行き、キーマンを掘り出すことができればそこからさらに広げてくれる。市民参画の公平性を保つという観点では市内全域で一般募集をかけた。
- ・一般の市民とキーマンでは知識や提案レベルにギャップがあり、一般の市民の参加が単発で終わってしまうことがあり市としても課題と感じていた。
- ・R 3 に実施した「ミルミルフムフムツクール」では参加者の裾野を広げたいという思いもあり、デザイン的な目線をチラシに入れ込んだ。そうするとまた違うメンバーが集まり、話し合いを重ねるごとに新規メンバーが発言力を持ってきて古参と同等の議論ができるようになったということもあった。

（質問者 2）

- ・キーワードとして育てるということがあったが、この事業のプロセスは何か事例を参考にしたのか。

（回答）

- ・神戸の東遊園地など広場事例を複数視察したがコンセプトを作るための視察はあまりしていない。IBALAB@広場をつくる際には豊田市の「新

とよパーク」「とよしば」で柔軟なルール作りや
カフェ等の設置事例を参考にした。

(質問者 3)

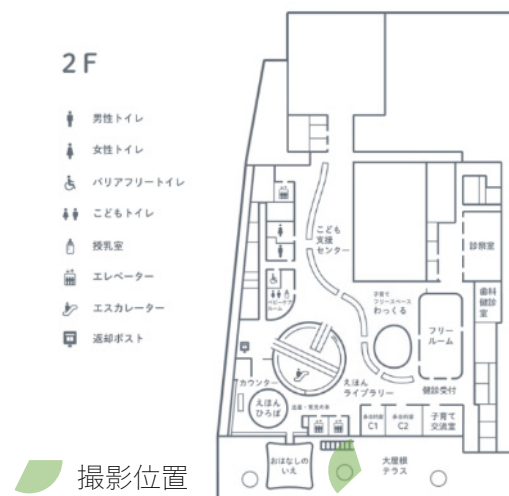
- ・スパイラルアップで育てていくという表現をしていたが、育てるというのは施設の新しい利用方法を見出していく「育てる」なのかそれとも、活動を通じて市民を「育てる」ということなのか。

(回答)

- ・おにクルという場で考えると、施設の使い方などのルールをみんなで育てていくということになる。実際に試行錯誤して使ってみることで足りないこと等に気づくことができ、施設の使い方を育てていくことができるものと考えている。

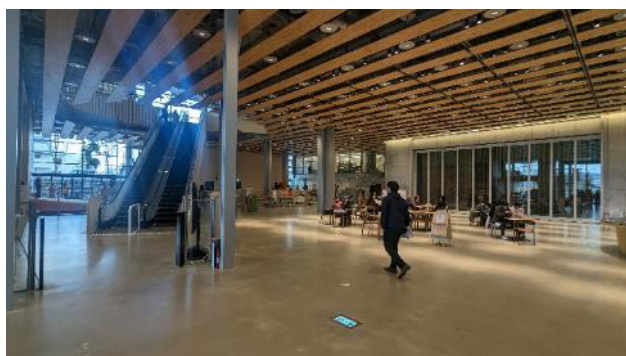
いる。

○2F こども支援センター、おはなしのいえ等



◆現地見学

○1F きたしんホール、屋内こども広場等



- ・きたしんホールとオープンギャラリー、大屋根広場の壁は可動式であり、取り外して一体的な利用をすることが可能。レセプションパーティなどでキッチンが使用できるとイベントの幅が広がるため、クッキングラボを併設。屋内子供広場は好評で、現在は事前予約が必須となって



おにクルでは各階の特徴に合わせて本を置いている。2階は子育て関連のフロアとなるため、子育てに関する本を置いている。また、市の子供支援に係る部署を統合し、このフロアでワンストップで様々な手続き、相談、検診等を受けることができるようになった。

○3F, 4F ゴウダホール、ホワイエ等



4F

- ♂ 男性トイレ
- ♀ 女性トイレ
- ♿ バリアフリートイレ
- 🍼 オストメイト
- 👶 ユニバーサルシート
- 🍼 授乳室
- 🚪 エレベーター
- 🚶 エスカレーター



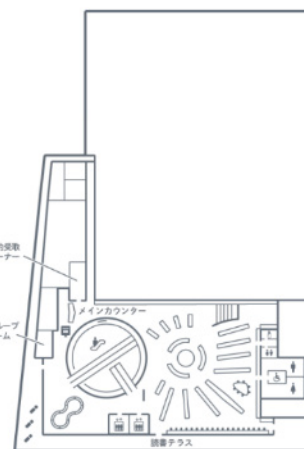
撮影位置

リハーサル室はゴウダホールの舞台と同じ大きさになっている。また、リハーサル室、楽屋、舞台裏まで一般の方が入れない動線でつながっており、ストレスなくスムーズに演者が移動することができる。ゴウダホールは1,200人収容可能であり、音響や視野など各所に工夫を凝らしている。ホールは4月、5月にこけら落としのイベントを実施し、6月から一般に貸し出す予定。全市民に来てもらうことを目標としており、様々な種類のイベントを実施する予定。

○5F, 6F 図書館等

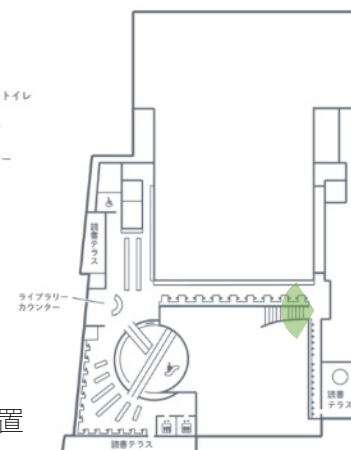
5F

- ♂ 男性トイレ
- ♀ 女性トイレ
- ♿ バリアフリートイレ
- 👶 こどもトイレ
- 🍼 授乳室
- 🚪 エレベーター
- 🚶 エスカレーター
- 📡 送迎ポスト

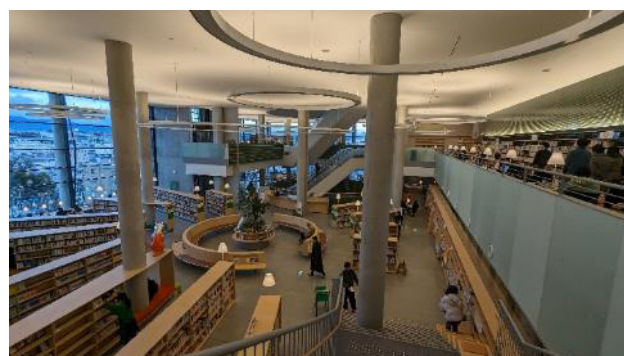
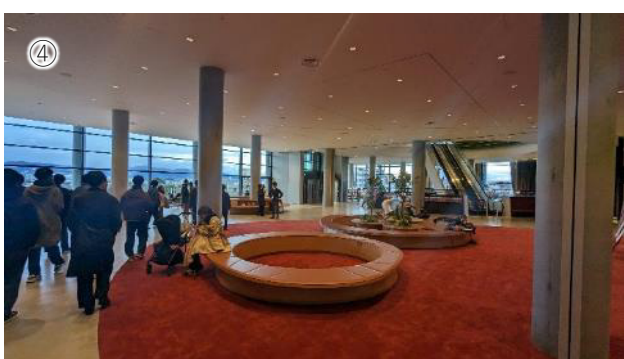
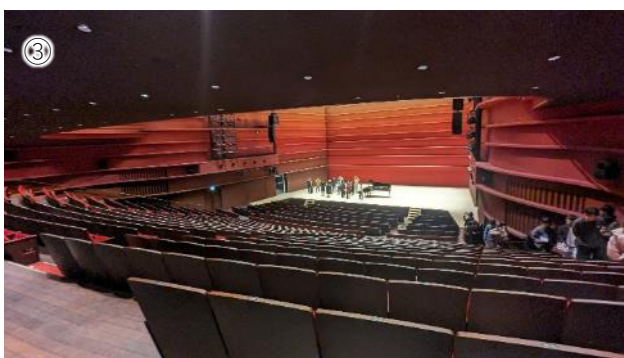
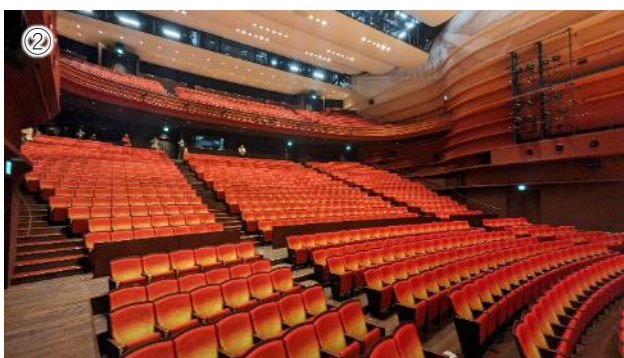


6F

- ♿ バリアフリートイレ
- 🚪 エレベーター
- 🚶 エスカレーター

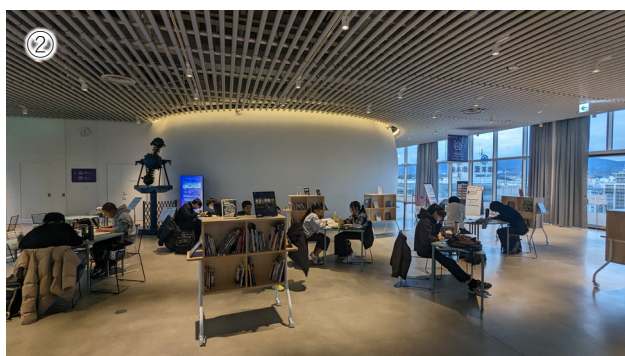


撮影位置



図書館では図書の貸し出し以外にも勉強や仕事をする方が多く利用されている。開館当時は床で自習している学生などもいた。また、5階の本棚の上にはヤノベケンジ氏のシップスキャットが設置されている。

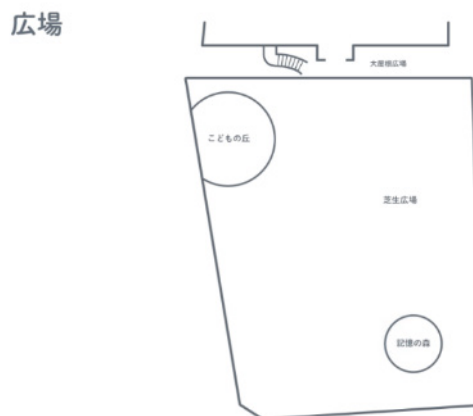
○7F 市民活動センター、屋上広場、プラネタリウム等



市民センターは団体だけでなく、個人で活動している方も利用が可能。屋上広場はイベントがない際は自由に利用することができる。また、屋上広場、和室、交流ホワイエ間の壁も可動式で取り外すことができ、一体的な利用も可能。プラネタリウムは貸し出してイベントで使用することも可能である。各階のエスカレーターは簡単に乗り継ぐ

ことができないため、来場した市民は、各階の施設やイベントをぐるぐる見ながら登り降りすることができる。

○1F 屋外 芝生広場



○IBALAB@広場 (いばらばひろば)

市民会館跡地暫定広場「IBALAB@広場」は、令和6年度までの暫定的な広場。キーコンセプト「育てる広場」の実現に向け、広場の設計段階から市民と一緒に考え、現在も広場を「つかう」方たちと一緒にルールを考え、更新していくなど、広場を「つくる」段階にも参加して頂くことで「つくる・つかう」の好循環を生み、みんなで広場と人の輪を育てている。

